

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



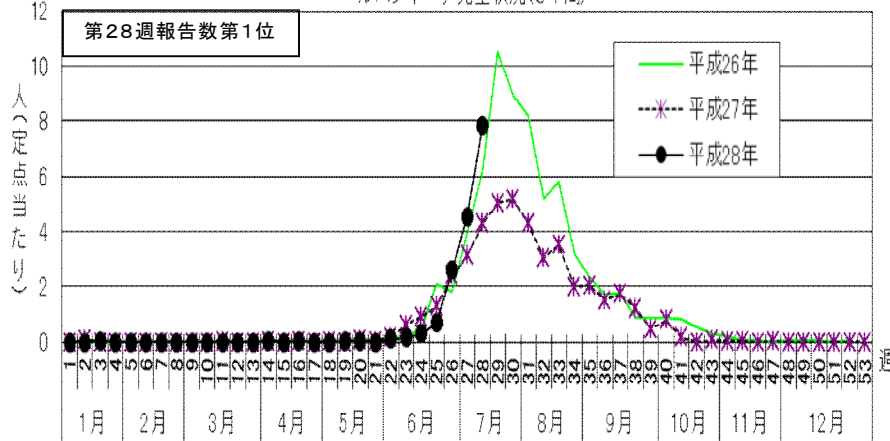
平成28年7月1日（月）～平成28年7月17日（日）〔平成28年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は7.84人と前週（4.54人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

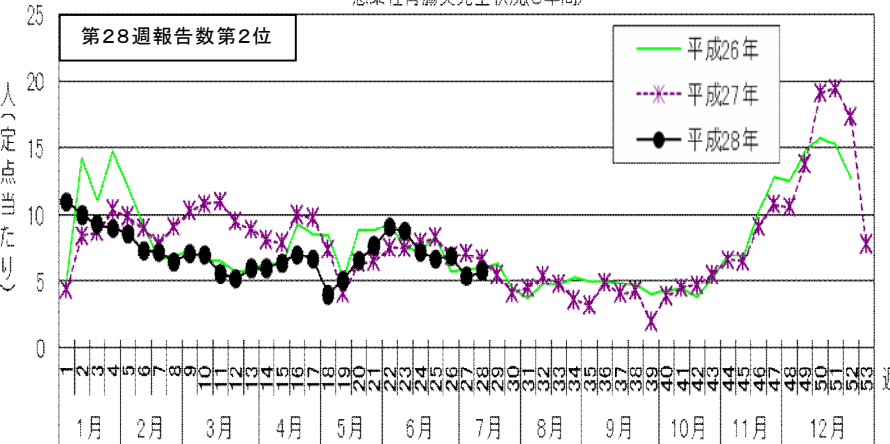
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.73人と前週（5.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.95人と前週（3.16人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています

ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ流行発生警報発令！！

ヘルパンギーナの患者報告数が3週連続で大幅に増加しており、第28週の定点当たり患者報告数が7.84人と、警報基準値（6人）を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。

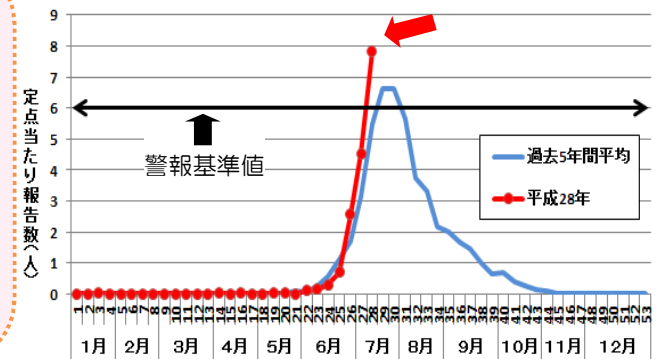
原因ウイルスは、コクサッキーウイルスやエコーウイルスなど様々です。今年度、健康安全研究所にヘルパンギーナとして搬入された検体からは、コクサッキーウイルスA4型、A2型、B5型などが検出されています。

注意点

咳・くしゃみや便中に排泄されたウイルスが口に入ることによって感染します。症状改善後も便中には約1か月間にわたり、ウイルスが排出されます。

通常の手洗いに加え、特にトイレやオムツ交換の後は念入りに手を洗いましょう。

川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況
—平成28年と過去5年間平均の比較—



口の中にできた水疱の痛みにより、水分が十分にとれないことがあります。こまめに水分をとり、脱水症を予防しましょう。